

ワークショップ 2

「小児におけるカプセル内視鏡の役割」

司会 中山 佳子（信州大学医学部保健学科）

石毛 崇（群馬大学医学部附属病院小児科）

小児では好発疾患が成人と異なり、体格や発達段階も多様で、カプセルの嚥下が難しい患者も少なくありません。また、バルーン小腸内視鏡検査は年齢が小さくなるほど技術的難易度が高く、低侵襲に小腸疾患の評価が可能なカプセル内視鏡への期待は大きいといえます。一方で、適応年齢、適応となる病態、安全性、読影体制、治療方針への位置づけなど課題もあります。本ワークショップでは、各施設における 18 歳未満の小児へのカプセル内視鏡検査の経験や最新知見に関する演題を募集いたします。小児におけるカプセル内視鏡の役割を、多角的な視点から討論できる場となることを期待しております。